



【長生村長賞】

あめみや げんご
雨宮 源吾

長年連れ添った妻に、上手に話せないなんて本当に変だよね。
でも、今はそれが現実だから、心の内を手紙にしたためた。

知り合ってから53年、結婚して51年が過ぎたんだよね。振り返ってみると、僕の若い頃は、雲を掴むような夢をよく喋っていたような気がする。「気がする」ほど、遠い昔になってしまった。

僕はいつの頃から、口が開かない『貝病?』に冒され始めたのだろうか。それは、脱サラで自営業の道を選んだときからだったと思う。自営業の厳しさは想定外だったね。日々、ストレスの塊となっていた僕。思うところとは逆に、妻にも子供たちにも辛い思いばかりさせていることが情けなく、『貝病』をさらに悪化させたのだと思う。

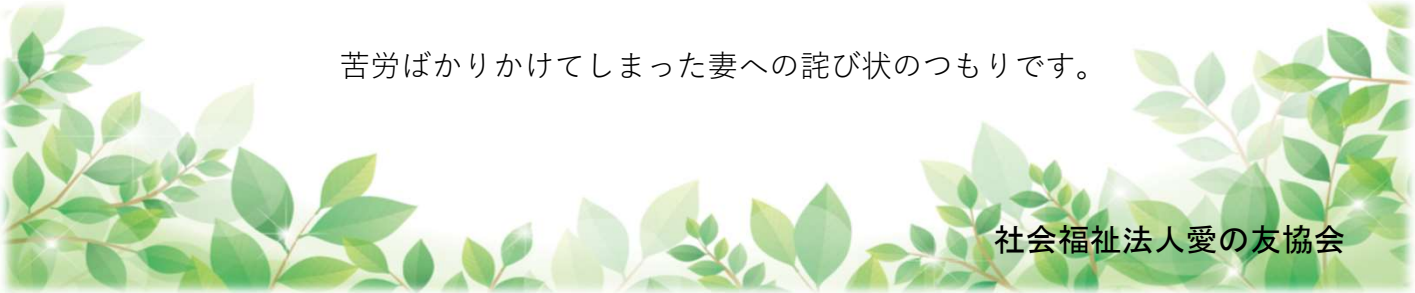
ふと気がついてみると、この恐ろしい病が、愛する妻にまで伝染してしまっていることに忸怩たる思いだ。

そこで僕は、にわか藪医者ではあるが、研鑽を積んで名医になり、妻の主治医になろうと、一大決心をした。

二人きりになっている今、藪医者でも、たった一人の患者にかかりつきりになれば、病は絶対に治せる。具体的な治療法は極秘だが、ちょろっと口を滑らせると、「ついつい口元が緩んでしまう『笑顔』」という、途方もなくよく効く薬の使用も検討している。

お互いに後期高齢者になってしまった。10年先か20年先か知らないが、その時は、楽しくお喋りをしながら二人一緒に旅に出よう。

(山梨県 / 76歳 / 男性 / 無職)



苦勞ばかりかけてしまった妻への詫び状のつもりです。